

共同利用・共同研究課題「アイヌ語現地調査資料のアーカイブズ構築にかんする学際的研究(3)」(jrp000293) 2024年度第2回研究会(通算第2回目)

2024年12月15日(日) 10:00-15:50

AA研セミナー室(301室)およびZoomのハイブリッド形式にて実施

本共同研究課題の2回目となる今研究会では、4件の発表と、発表に関する質疑応答・情報提供、全体討論を行った。当日のプログラムは以下のものである。

- 10:00-10:10 奥田統己(AA研共同研究員, 札幌学院大学) 開会, 趣旨説明
- 10:10-11:00 山越康裕(AA研), 奥田統己(AA研共同研究員, 札幌学院大学)「AA研所蔵アイヌ語関連資料および文献の整理の現状と成果について」
- 11:10-12:00 深澤美香(AA研共同研究員, 国立アイヌ民族博物館)「AA研所蔵のアイヌ語フィールドノートの整理に向けて:美幌方言調査を中心に(10)」
- 13:00-13:50 小林美紀(AA研共同研究員, 国立アイヌ民族博物館)「アイヌ語研究者の手稿類公開における課題」
- 14:00-14:50 児島恭子(AA研共同研究員), 阿部佳恵(AA研共同研究員)「AA研所蔵アイヌ関連文字・写真資料の整理の現状と方針」
- 15:00-15:50 総合討論/AA研所蔵のアイヌ語資料の整理の現状・成果と今後の共同研究の方針について

夏季に実施した旧蔵書の整理・処分と、それに伴って進捗のあったその他資料の整理状況についての報告が2点(山越・奥田報告および児島・阿部報告)あったほか、1950年代に行われたアイヌ語調査におけるフィールドノートとその後の公刊資料との対応関係を論じた深澤報告、アイヌ語研究者の手稿類を公開する際の対応に関する事例紹介となる小林報告の計4件である。以下、公開可能な範囲で内容を簡潔に報告する。

山越・奥田報告では前半で奥田がこれまでのアイヌ語資料整理状況について報告したうえで、山越が夏季の旧蔵書整理・処分について時系列に沿って報告した。奥田報告では修士論文公開における個人情報のマスキングをどのように・どのレベルまでおこなうかという問題提起がなされた。

続く深澤報告では、1950年代服部四郎を中心に進められたアイヌ語方言調査について、現存するフィールドノートとその後公刊された『アイヌ語方言辞典』との対応関係について詳細な報告がなされた。

小林報告は研究者の手稿類を公開する際に、どのような配慮が必要か、どの程度配慮すべきか、その手続きはどうあるべきかという点に関して、博物館展示における過去の事例を報告した。ここにはプライバシーだけでなく、さまざまなバイアス・偏見に対しても想定して

配慮する必要があること、一律に基準を設定することが困難であることが指摘された。これはこうした社会のバイアス・偏見に対しての向き合い方を考えるうえでも重要な内容であった。

見島・阿部報告では、旧蔵書が整理されたことで作業スペースが確保されたことから、その他書類および写真類の整理作業が進んでいることが報告された。そのなかで、写真資料についてはネガの劣化が進んでいるためデジタル化を早急に進める必要があること、その一方でプライベートな写真も同一フィルムに混在する場合に、それらをどう選別すべきか、どこまでをデジタル化すべきかが問題として存在することが指摘された。さらに今後の音声資料・フィールドノート・公刊済資料の紐づけ作業の見通しについても報告された。

以上の報告をふまえ参加メンバー全員で討論をおこなった。

(文責：山越康裕)

※当報告の内容は、報告者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.